



発行・編集 船橋市立リハビリテーション病院
発行責任者 院長 梅津博道
〒273-0866 千葉県船橋市夏見台4-26-1
☎047-439-1200
<http://www.funabashi-reha.com>

2020.12
VOL.1

院長の梅津博道です。

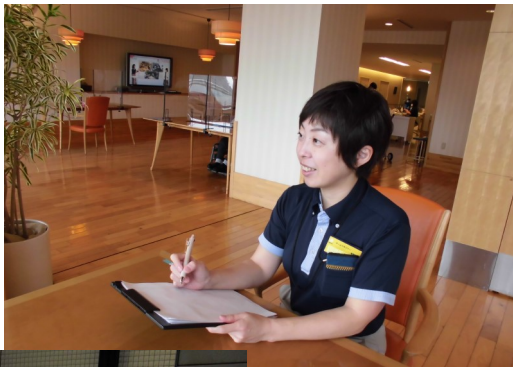
当院は2008年4月に公設民営のリハビリテーション専門病院として開院しました。船橋市が土地や建物などハード面を準備して、ソフト、すなわち管理・運営を民間の医療法人である私たち輝生会に委託することで、良質な医療サービスの提供と健全経営を期待されたこととなります。それから12年、かけられた期待に応えることを最優先に努力を続けて参りましたが、まだ道半ばと感じていた矢先の2020年8月初め、新型コロナウイルス感染症のクラスターが当院の1つの病棟で発生しました。開院以来最大級の衝撃的な出来事であり、多くの皆様に多大なご心配、ご迷惑をおかけいたしました。そのような不幸な出来事を体験した今だからこそ、輝生会のアイデンティティである「患者さまに再び輝いてほしい」、その願いを実現するために、決意を新たにしております。今後も安全な環境と医療サービスの提供を最優先に、リハビリテーションやケアの質を高めるための努力を続けてまいります。

船橋市立リハビリテーション病院

院長 梅津 博道

創刊号

おまかせしました
船橋市立リハビリテーション病院の
情報誌が創刊されました！



リハケア部長 と 8人のチームマネジャー

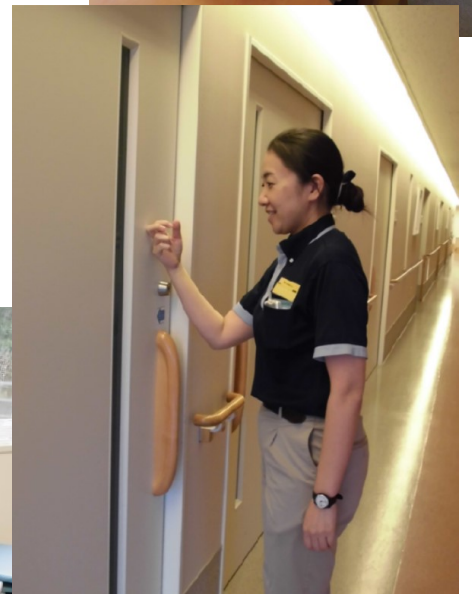
各病棟と外来、訪問に
それぞれチームマネジャーがいます

職種は
看護師、理学療法士、作業療法士と様々です

リハケア部長を中心に
チーム運営の実施
患者さま受け入れのための病床管理
多職種の集まるチームの環境作り
業務に関わる報連相の統括責任
スタッフの労務管理
患者さま・ご家族が安心して過ごせるように



私たちは日々
チームアプローチを大切に
働いています



リハケア部長

教育研修部 あいさつ



2002年、わずか160名の職員でスタートした輝生会は、現在では5拠点に約1,200名の職員を抱える大所帯となりました。そのうち、入職3年未満の職員が約40%を占めています。教育研修部も多職種チーム一丸となって、患者さまに「再び輝いた人生」を送っていただくために、法人の基本理念を実践できる人材の育成に努めています。



院内研修受講者

輝

生会に入職して、まず初めに全職種合同の新採用者研修を受講しました。ここでは、会長・理事長講演、ケア業務（口腔ケア・食事ケア・更衣など）、就業規則、医療安全などの講義と演習を通じて、法人の理念と社会人・医療職としての心構えを学ぶことができました。また、多職種とのグループワークを通じて、様々な専門職と交流を持つことができ、自然にチームアプローチを体験することができました。

そして、作業療法部門内の新採用者研修では、当院で行っている特徴的なアプローチや、臨床現場で活かせる知識・技術など、作業療法の専門性について学ぶことができました。入職前は、初めて現場へ出ることへの不安や、自分が患者さまやチームの役に立てるのだろうかと心配していましたが、この研修のおかげで、安心して作業療法士の第一歩を踏み出すことができましたように感じています。当時学んだことは、10年以上経つ今でも、私の医療職としての礎となっています。

作業療法士 前田

早

いもので、サブマネジャー（SM）になり、5年が経過しました。任命を受けた当時は、SMとして右も左も分からない状態でしたが、SM研修では、私が直面した課題を解決するヒントを学ぶことができました。この研修では、マネジメントや教育など、多岐に渡る分野について、法人5拠点のSMが一堂に集まって学びます。その中で、特に印象に残っているのは、SM1年目のときに受講した講義『仕事を支えるコミュニケーション』です。この講義では、対面・電話・メール・文章、それぞれの長所と短所を理解し、使い分けことが重要であると学びました。それからは、後輩へ何かを教えるときに、「このことはメールではなく、後輩の表情も見ながら、顔を合わせて伝えた方が良いかな」と、一旦立ち止まって考えられるようになりました。このようにSM研修には、日々の業務に活かせるメソッドがたくさん散りばめられています。「学んだことを存分に活用しよう」という思いで受講すると、日々の業務が変わってくると感じています。

理学療法士 橋本



部門紹介

診

療部には梅津

院長を含め9名の医師が所属しています。そのうち6名はリハビリテーション科専門医で、他3名も専門医取得を目指し日々研鑽中です。なかには脳神経外科や整形外科



など他科専門医を取得している医師もあり、年齢は20代～70代と幅広く、男性率と眼鏡率が高めです。寡黙だけど責任感とユーモアある院長のもとで一丸となり、主治医として患者さんが主体的に必要な十分なリハビリテーションを行えるよう日々サポートし、チャレンジに対して前向きに

一緒に取り組んでいくことを心掛けています。また、各病棟には約50名のスタッフが配属されており、当院の特徴であるチームアプローチを推進するために周囲との協調性とコミュニケーション能力を高いレベルで求められる日々を過ごしています。

食事配膳はパントリーから

多くの病院では、温冷配膳車を使用して料理の適温を保つ体制を整えていますが、当院では温冷配膳車はあえて使用せずに、パントリー（食堂に隣接している厨房）からの食事配膳を行い、広々とした食堂で食べて頂きます。

患者さまの食事開始に合わせて料理を仕上げ、パントリーで炊きたてのご飯を提供します。患者さまが食堂についてから料理を盛り付けることで、温かい料理に、冷たい付け合わせをつけるなど料理のバリエーションが広がり、香味野菜なども素材の風味を損なわず提供できます。

パントリーからの食事提供には、栄養部スタッフ、看護、ケア、さらにはリハビリのスタッフも配膳を行います。医師やソーシャルワーカーも食事場面を見守り、チームで食事支援をしています。

栄養確保ができていますか？

食事動作は？

そしやく

咀嚼や飲み込みの状態は？

食事場面から得られる情報をチームで把握することは、ADL（日常生活動作）改善のためにとても重要です。



お食事中的笑顔が私たちの励みです

